

地域ケア会議において抽出された地域課題について

- 1 抽出対象
令和4年1月から同年12月までに開催された自立支援型地域ケア個別会議（全12回、34ケース）
- 2 上記期間における会議実施状況
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴者の人数を制限しながら参集して開催
- 3 抽出された地域課題

提出されたケースの背景	ケースの特徴	見えてきた本市の特性	危惧されること・対策
<p>昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、外出自粛・閉じこもり状態の継続のため、心身の機能低下（いわゆる「コロナフレイル」）に至った事例、また、こうした不活発状態の長期化によって、従前からの基礎疾患・慢性疾患等の悪化を招き、支援を必要とする状態に至ったと考えられる事例が多くみられた。</p>	<p>【身体の状況】 ① コロナフレイルによる運動器の筋力低下 ② 循環器系疾患の悪化による運動の制限、長期安静による心肺機能・運動機能の低下 ③ 神経難病（パーキンソン病など）、または脳血管疾患の発症による運動機能障害の出現 ④ 加齢や骨粗鬆症を背景とする身体各部位の変形性関節症による可動域制限や痛みの出現 ⑤ 認知症・老人性うつ発症による意欲低下、指示動作の困難性</p> <p>【支援者が専門職に求める助言の傾向】 ① 高齢者一人一人で異なる疾患・身体機能と、住宅環境・家族状況など、個別・具体的な条件に合わせ効果を発揮する運動項目・方法を知りたい。 ② やせすぎ、あるいは太りすぎといった栄養状態の管理に不調がある高齢者の食生活、食事内容に関する指導助言がほしい。</p>	<p>① コロナフレイルをはじめ、種々の疾患や機能障害による閉じこもり状態・運動器機能の低下に対し危機感を持ち、悪循環を改善したいと考え、個別的な状況に合わせた具体的な身体機能の維持・改善の取り組みを望んでいる高齢者が多い。 上記より、介護認定を受け、介護予防・総合事業のサービスの利用による専門的指導のもとで取り組みを開始するが、細かな個別的条件に合わせた訓練については、サービス利用のみでの充足は困難となっている。</p> <p>② 運動器機能の維持・回復には栄養状態の管理も重要となるが、基礎疾患や食習慣の背景から、栄養管理・体重管理が不調となっている高齢者が多い。</p>	<p>【危惧されること】 介護保険（予防）・総合事業サービスのみで頼る形での支援から、地域、個々の状況に合わせた取り組みに重点を置く支援へのシフトができないでいると、介護保険サービスの供給不足や、維持・改善の取り組みが活かされないまま、介護状態の重度化に陥ってしまう可能性がある。</p> <p>【今後の方向性】 サービスの利用終了後も、運動器機能や栄養状態の個別的事情に合わせた運動プログラムや栄養改善等に本人自らが積極的に取り組み、継続できるセルフケア・セルフケアマネジメントの指導・支援の一定の手法を確立する。</p> <p>【具体策】 ・サービス事業所によるセルフケア指導の実施状況の把握をし、セルフケア・セルフケアマネジメントの指導・支援の手法の構築を進める。</p> <p>・一時的にサービスを利用することになったとしても、「以前やっていた活動に戻りたい」という本人のモチベーションを向上させるコツや技術について、支援者が習得するための研修等を企画する。</p>